

成人式で
二十歳の誓い



井上洋子さん

伝法・桜ヶ丘町の井上洋子さんは、吉原市民会館で行われた成人式で、二十歳の誓いを述べました。

「事故で手足の自由を失った星野富弘さんの本を中学生時代に読んで以来、生きることのすばらしさ、健康であることのあるがたさを忘れないようにしてきました」と落ち着いて語りました。

現在、県立大学の短大の二年生。今春社会人となることもあって「早く成人として自覚を持たなければ」と燃えています。

伝法小の六年生

卒業証書を自分の手で



伝法小学校の六年生は、五年前から卒業証書の用紙を自分でつくっています。ことしは、大淵第二の六年生も加わり、百八十六人が、一月十九日と二十四日の二日間、紙すき作業をしました。

自分ですいたものがそのまま卒業証書になるとあって、子供たちはみんな真剣。日ごろは何げなく使っている紙のありがたさにも気づいたようでした。

二人のおばあちゃん
百歳に

一月に二人のおばあさんが、相次いで百歳を迎え、市からお祝いを受けました。二人は、久沢南の原りやうさんと老人ホーム天間荘に入所中の近藤なかさん。

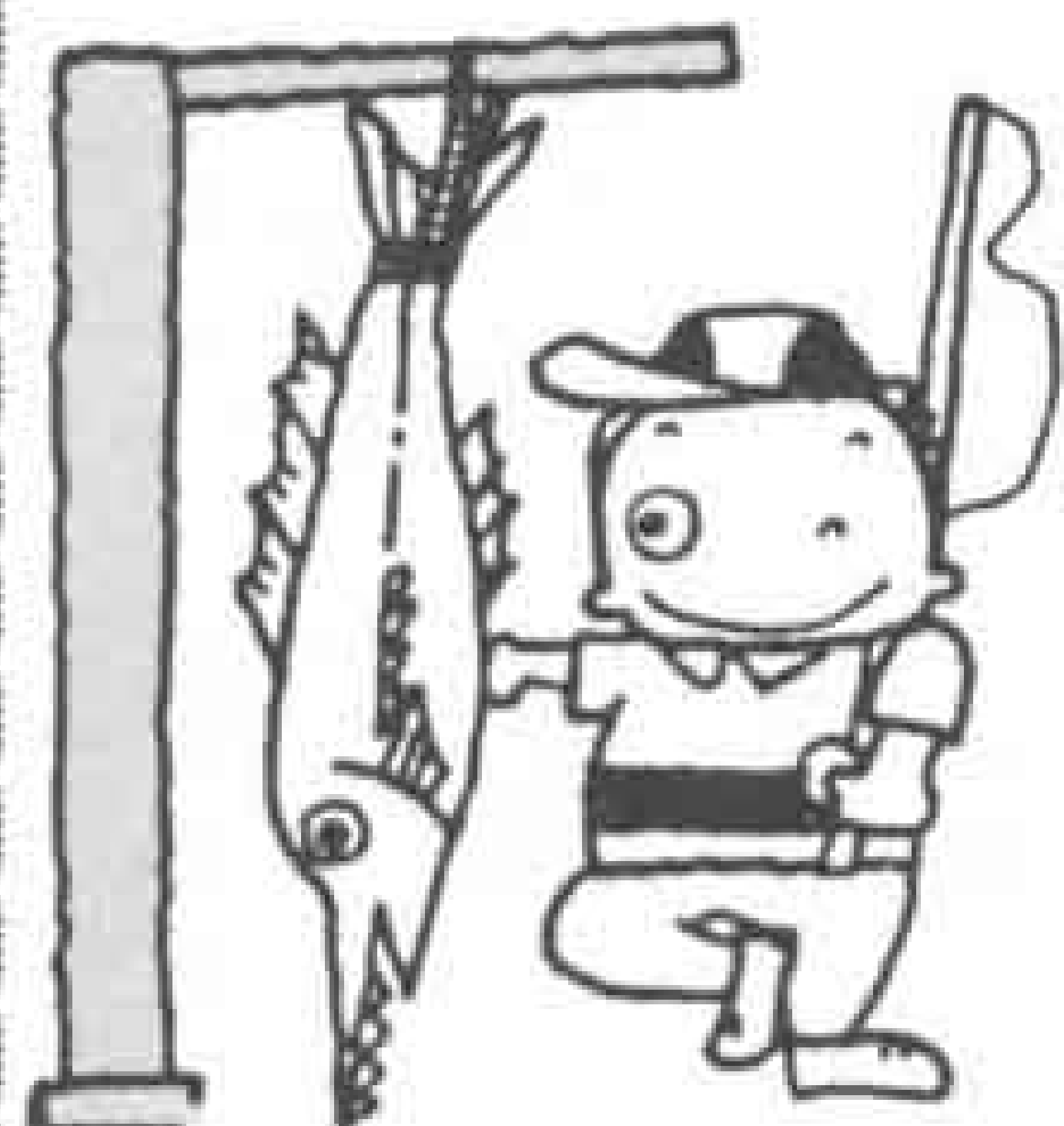
原りやうさんは、耳がやや遠いほかは丈夫で、時には散歩をするほど元気。若いころは農業に専念するかわら、十人の子供を育て上げました。食べ物は大根の煮物が大好きで、たまには、ほんのちよっぴりお酒もたしなむとか。二人を入れて市内の百歳以上は十人になりました。



原りやうさん

富士市のギネス

ほんのモ
No.1



10トトラックの台数が県下一



△チップを運ぶトラック

富士・富士宮地区のマイカーの普及率が県下一という話題は、以前も紹介しました。

自動車の保有台数に視点をあててみますと、10トンを超えるトラックの台数は、昭和63年4月1日現在1,315台で県下一です。2位の浜松市が686台、3位の静岡市が610台ですから群を抜いて1位といえます。これは、富士市が製紙・パルプ産業を中心とした工業が盛んということが理由でしょう。

行政の側として逆な見方をすれば、大型車が多いということは、それだけ道路整備や交通安全施策が求められるということにもなり、行政課題も多いといえます。



富士山を心で撮る

紅陽会富士支部の皆さん

紅陽会は、富士こそ、わがいのち」とシャッターを切り続けるカメラマンのグループ。二月二十八日まで市立博物館で第八回富士山写真展を開いています。今回は紅陽会富士支部におじやました。

紅陽会の富士支部が結成されたのは七年前。会員は富士市を中心に富士宮市・芝川町に及び、現在十人構成されています。

写真歴は四・五年の人から三十年に及ぶ人までいろいろ。写真屋さんの二人を除けば、いずれもアマチュアですが、腕前はプロ級。「富士山は生きている。愛の鼓動が脈うっている富士山は心で撮れ」と言ったのが紅陽会の恩師岡田紅陽氏。

その遺志を継いで、カメラ片手に自分なりの撮影ポイントでシャッターを切っています。

そして、それぞれ撮った自信の作を、毎月一回の例回で見せ合って技術を磨いています。

富士山は撮り尽くされて難しいという意見もありますが、「富士山は何回撮っても同じ写真は撮れない」というのが皆さんの意見。

支部長の依田房夫さん(富士町・五十八歳)は、



△撮影会での一コマ

「あそこの富士山が美しいと聞けば、どこでも飛んでいくようなメンバーの集まりです。人一倍富士山に魅力を感じているということでしょうか。富士市側の富士山が少ないので、これからねらってみたいと思います」と語ります。とにかく、一度博物館に足を運び、すばらしい富士山をごらんになってください。